

第3回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成23年3月18日（金）10:00～11:040
場所：第1委員会室
出席者<委員>：鳥越良光、後山富士水、藤本貴子、須江英典、美若晨子、草替康弘、小山京子、小西治之、西山禮子 〈津山市〉：宮地市長、大下副市長、田口特別理事、豊岡水道事業管理者、部長級職員、事務局
1. 開会 黙禱
2. 本部長（市長）あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 協議事項 （1）事業仕分け（今後の方針）について
会 長：まず、全体的な考え方について意見ををお願いします。
委 員：要改善の場合に、結果があいまいになる恐れがあるので、その改善効果等を評価する基準を示す必要がある。
委 員：改善の方向性が、事業仕分け判定のときの意見と多少ずれがあるような印象がある。
総合企画部長：市民評価委員の意見を見させてもらった上で、市の方向性を決定させてもらっています。すべての意見に答えられていないかもしれませんが、明らかに違うということがあればご指摘をお願いします。
会 長：今までのルールではできないという考え方ではなく、従来の発想を変えて、ルールを変えてでも今までできなかったことを可能にするという考え方が必要である。
委 員：「検討する」という表現が多いが、検討内容を具体的に盛り込む必要があるのではないか。
総合企画部長：この方針を具体化するときに、ご指摘を肝に銘じまして取り組んでまいります。
会 長：全体について、各委員さんからひと言ずつをお願いします。
委 員：「検討する」とか「協議する」とかの内容について、やはりきちんとした数値目標を決めるということをお願いします。
委 員：節約すべきところは節約するという考え方で、取り組んでいく必要があると思います。
委 員：それぞれでいろいろと考え方に温度差があると思いますので、どこまでどういうふうに考えていくのかというレベルの調整をお願いしたい。 この委員会での意見は、どのようなことになるのか。
総合企画部長：事業仕分けの判定結果に対しまして市の方向性を示させていただいているわけですが、本日いただきました意見につきましては、反映できるところは取り入れさせていただきます。今後、取り組んでいくことになります。
委 員：やりにくい面もあるでしょうが、行政もこれからどうすればよいのか、思い切った考え方で取り組んでいかなければならないと思います。
委 員：あまり必要がないような事業については、思い切った仕分けをしていただければ良いと思います。今後は、行政を頼りにするのではなく、市民が甘えてはいけなと考えています。
委 員：多数決での判定結果となっておりますが、様々な意見が出ていますので、そのことも考慮して今後取り組んでいただきたいと思います。

委員：私も市民評価委員も、行政の事業についてよい勉強になったと思います。

委員：どの事業についても関係者、関係団体がいらっしゃいますので、よく協議をしていただいで共通認識の中で見直しを進めていただきたいと思います。

会長：それでは全体としては、「今の時代を反映させた見直しの内容にしていだきたい。」という取りまとめにさせていただきます。

次に、個別の事業について意見をお願いします。

委員：「広報つやま」事業について「協議を行う」とありますが、配付手数料についても連合町内会に見直しの協力をお願いしたいと考えているのでしょうか。

協働推進課長：手数料の妥当性などについて、ご相談、協議をさせていただきたいと思っています。

会長：協議するにあたって、市としての理念、考えかたをしっかりと持って協議し説得するようにしてください。

委員：市がこれだけ財政困難であるのなら、その事情をきちんと説明して、「市民が自分のことは自分でやる」という意識を持ってもらうようにすべきだと思います。

会長：「空き店舗対策」ですが、この事業については判定結果「廃止」と市の方向性「改善見直し」が異なっています。空き店舗対策は必要だということは理解しますが、その内容が大切だと思います。市としての説明責任を果たすために、説得できるだけの内容が必要になります。

委員：「補助金返還等の検討を行う。」とありますが、これは「返還を請求する。」とすべきではないか。

経済文化部長：判定結果を受けまして「廃止」を検討しましたが、「空き店舗対策」を廃止した場合のデメリットを考えますと「廃止」に踏み切ることができないと考え「改善見直し」としたものです。中心市街地の活性化を図り、住み良いコンパクトな街づくりを目指してまいりたいと思っています。

産業支援課長：市の要綱を改正し、「返還について請求する。」ことを盛り込みたいと考えています。

（２）平成２２年度行財政改革実施報告（見込み）について

会長：実行計画についても策定時と状況が変わっていますので、再検討するというスタンスで考えていてもらいたい。

（３）職員業務改善提案について

会長：レベルアップするための方策を考えて、今後とも取り組んでください。

（４）その他

委員：土地開発公社の問題についてですが、目的を失っている土地についてまで「改革推進債」の対象として借り入れて、将来の世代にまで負担を負わすべきではないと考えますが、いかがでしょうか。

総合企画部長：「改革推進債」を借りて土地開発公社の抜本的な改革、見直しをするための枠組みを策定しているところですが、将来世代に極力影響がないように工夫をしていきたいと考えている。ご指摘は充分承知しているつもりですので、お知恵を貸していただきたいと思います。

会長：知恵を出して、土地を活用する方法を考え出してください。たとえば、タダで土地を貸し

て企業を誘致し、雇用を生んで税収を増やすなど、従来の発想でものを考えないことです。

委員：人口の減少により交付税がかなり減額になるはずですし、東北大震災の影響で特別交付税がカットされる心配がありますが、いかがでしょうか。

財政部長：3月の決算期を迎えるこの時期に特別交付税のすべてを減額することは、国としても行わないのではないかと希望的な考え方を持っています。

会長：「国に頼らない、自分のことは自分です。」という基本的なスタンスを持って、よいまちづくりを目指してください。

5. 市長あいさつ

6. 閉会